

シリーズ
水辺の鳥たち
(カワセミ)

白子川のカワセミは、5月から8月にかけて2～3回、子育てをします。昨年は源流付近から三ツ橋までで、3個体のカワセミ雛が生まれました。一度に3羽から5羽誕生します。この時期ならではの、白子川のカワセミさんの楽園です。散歩の途中に、探してみてください。そして、そっと見守ってください。

(2022年5月6日、源流付近で撮影：水野勉)

大泉今昔物語
～世界に拓く都市農業～

こんな古今東西に広がる題で、さる2月19日、久しぶりの白子川講演会が開かれました。講師の加藤義松氏は、江戸時代から続く地元大泉の農家で、日本で初めて農業体験農園を開園し、現在は全国農業体験農園協会理事長を務められている方。多くの方にご来場いただき、視野の広いお話がたいへん好評でしたので、その一端をご紹介します。

私たちはまちの中に農地があることを普通に感じていますが、これは世界から見るととても珍しいことだそうです。練馬のような都市の中に農地があるまちづくりがいま世界のトレンドに

なっているのです。

欧米の都市計画では、都市地域（商業・住宅地）と農業地域を分離してまちづくりが行われました。しかし、近年、都市の中に農地を配置することは、人々の生活に潤いや憩いをもたらし、ふれあいや人との交流の場をつくり、新鮮な農産物の供給、生物の保護や地下水の涵養、災害時の避難場所など、その多彩な機能が見直されています。

そのモデルとして世界から“練馬”が注目されています。2019年には練馬区で「世界都市農業サミット」が開催されました。シンポジウムでは、ニューヨーク、ロンドン、ジャカルタ、ソウル、トロントの5都市が参加し、「サミット宣言」を発信しました。今年は、都市農業見学のために世界の

国々から関係者が練馬を訪れるそうです。（その見学コースに、農業にとって貴重な白子川の水辺も入らないか、と思った会員も何人かいたような…）

これから水辺の会も市民全体で協力して、農地のあるまちを守っていききたいと改めて思いました。

「都市なかに 畑や林を守りつづ
次へ繋げる人の確かさ」

（詠人：渋谷英子）

（岡崎一成）



稲荷山公園の整備は今どうなってる!?



区長所信表明

●令和3年第一回定例会（2021.0204）

白子川の源流部に位置する約5ヘクタールの大泉井頭公園は「水辺空間の創出」、約4キロ下流に位置する約10ヘクタールの稲荷山公園は「武蔵野の面影」をテーマに、みどりの拠点づくりを進める長期プロジェクトとして、検討を進めている都市計画公園です。多くの区民に親しまれ、23区唯一の大規模なカタクリ群生地など、希少な自然に恵まれた稲荷山公園は、基本計画を来年度策定します。今月、素案を公表し、区議会並びに区民の皆様のご意見を伺ってまいります。

●令和4年第二回定例会（2022.0608）

稲荷山公園と大泉井頭公園は、白子川を軸とするみどりのネットワークの拠点となる都市計画公園です。この度、「稲荷山公園基本計画（整備イメージ）」を策定しました。引き続き、実施計画策定に着手します。大泉井頭公園は、来年度の基本計画策定を目指し、関係機関との調整を進めます。両公園とも、規模が大きく、整備には長い期間を要します。事業の節目ごとに権利者の方々の意見を伺いながら進めてまいります。

●令和5年第一回定例会（2023.0206）

稲荷山公園では「武蔵野の面影」をテーマに、年度内設置予定の（仮称）専門家委員会や地域の皆様の意見を踏まえ、来年度は整備に向けたロードマップを作成します。大泉井頭公園は「水辺空間の創出」をテーマに、基本計画策定に向けた基礎調査を実施します。

「稲荷山公園」は、大泉井頭公園と同様1957年に「白子川沿いの良好な樹林傾斜地の自然環境を保全する」ことを目的に都市計画決定され、区民にとっては、清水山の森のカタクリの群生地、東京の名湧水57選に選ばれた湧水地、中里の富士塚、そして昆虫標本を多数所蔵する稲荷山図書館等自然と歴史の宝庫として身近な誇れるエリアである。

その後、所信表明にあるように新たな整備に向け検討がなされ、2021年2月、「稲荷山公園基本計画」（素案）が策定された。“素案”公表後、①パブリックコメントの手続きが取られ（2/21～3/31）、②オープンハウスが開催（3、8、9月に合計7回、地域集会所等でパネル展示や整備計画（素案）の配付）され、寄せられた意見や提案を踏まえ、2022年4月、「稲荷山公園基本計画」（整備イメージ）が策定公表された。

さて、それでは、“素案”から“整備イメージ”へ、どう見直しが図られたのだろうか。確かに2023年度以降“専門家委員会を設置し”“段階的な整備のロードマップを策定する”と流れはトーンダウンしたように見えるが、“犠牲が大き過ぎる”という計画に反対する住民の声は盛り込まれず、400世帯が立ち退く基本方針に一切変更はない。この間、見直しを求める地域の住民は、署名をはじめ意見書・嘆願書・要望書等あらゆる手段を使い、区長、区議会、区議会議員、土木部長等へ陳情を行ってきたという。

最後に、“清水山のカタクリを守る会”会員が語る真情溢れるお話を紹介したい。「森を増やす必要はない、カタクリが育つ環境づくりをすれば十分。都市と共存する”みどり”だからこそ現状が貴重で、改めて総合公園がここに何故必要なかを訴えていきたい」。大泉井頭公園に先行する稲荷山公園整備の今後を引き続き関心を持って見ていきたい。（永井 薫）

定例活動報告（2022年12月～2023年3月）

日時 (調査開始時間)	天気	気温 (°C)	源流部 流速 (km/h)	源流部 流量 (L/秒)	調査地点	水温 (°C)	水深 (cm)	pH	COD (mg/L)	主な活動・特記事項	参加 会員数 (名)	収集ゴミ 90L (袋)
2022/12/25 (13:20)	晴	12	0.14	48.3	源流部	16.1	11	6.80	0	●川と周辺の清掃、倉庫整理を丁寧に行った ●年末年始の横断幕の取り付け	17	15
					井頭橋	16.8	8	5.70	0			
					井頭～火の橋中間	15.7	26	5.10	0			
2023/1/22 (13:00)	晴	8.5	0.058	3.05	源流部	—	—	—	—	●源流池は一部水が残っているだけで水が枯れていた ●緑橋下の左岸で大量のホトケドジョウ確認	17	20
					井頭橋	11.8	12	欠	6			
					井頭～火の橋中間	14.1	14	欠	4			
2023/2/26 (13:30)	晴	9.5	0.021	5.2	源流部	—	0	—	—	●源流部の乾燥が顕著で、源流部、井頭橋も流量はゼロだった ●枯草刈り、出席の新入会員へのインタビュー、恒例のお汁粉会も	16	1
					井頭橋	—	0	—	—			
					井頭～火の橋中間	11.3	24	6.87	2			

※ CODとは、水の汚れを示す指標で、2は最低値できれいな水、4～6は少し汚れている、8以上は汚れている。当会では、低濃度簡易測定キットで判定している。

※ pHとは、酸性とアルカリ性を示す指数で、pH7が中性、7より大きいとアルカリ性、小さいと酸性

※表の(—)は、水がなくて測定不能、(欠)は測定機器の不具合等で欠測の意

◆3月は雨天により中止。

◆水辺の会では、定例活動において水質調査とともに放射線測定（2ヶ所で10分ずつ、単位は $\mu\text{Sv/h}$ ）も行っており、その結果は以下のとおり。

12月:0.08/0.10 1月:0.06/0.12 2月:0.09/0.06 3月:0.12/0.09 (源流部) / (元堰部)

新入会員紹介

新入会員で、2月の定例活動に参加されていた3人の方に、以下の3点について伺ってみました。

- ①入会のきっかけ ②入ってみてよかったこと、面白かったこと ③これからしてみたいこと (インタビュー・文 日高美南子)

伊東尚武さん

カエルは自然からの使い

①東京は大森生まれ。子どもの頃の原体験は呑川の水辺だが、カエルに目覚めたのは池上本門寺の池。よく見にいって、家でも金魚鉢で飼っていた。東大泉に越してからは白子川が散歩コース、カエル池を発見！会報でその話を読み、そのうち庭のヒキガエルの卵が大量に孵ってお手上げに。菅沢さんに電話してみたら、すぐに来て半分引き取ってくれた。これは何か手伝わねばと。

②会員がみな進んでやってるのがいい、やらされてるのでなくね。それぞれが好きなことをしてるところ。

③カエルを始め生物の生息環境をよくすることで何かしたい。昔の復活というより新しい方向を目指せば。



平永三千信さん

白子川は生家へ通じて

①生まれも育ちも築地。実家は隅田川河口、勝鬨橋のたもとで水産加工業を営んで、水辺はいつも身近だった。昨秋大泉に転居して白子川を辿り、源流部で池が無いのにここから水が！と驚いた。入会后、この源流の水は何日か後には新河岸川、隅田川を経て、生家の前を流れるんだと気づき、不思議な縁を感じた。

②自然の中でする初体験が楽しい、初めて鎌で草を刈ったけど集中していると無心になれる。うちではゴミを拾うのも嫌なのにね。河童に引きずり込まれたこと(=深みに足をとられダイブ)もあったけど、川の洗礼だね。

③泉のきれいな水で珈琲を淹れて飲んでみたい。



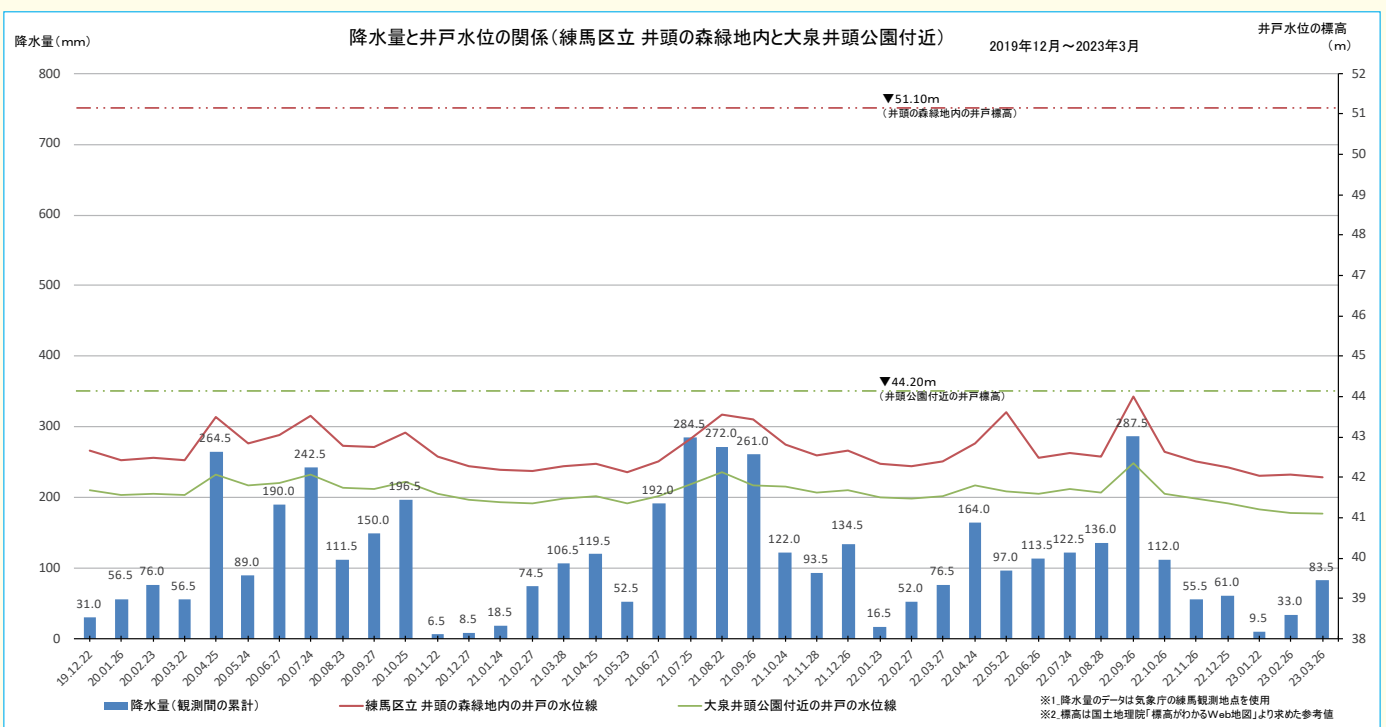
矢儀涼子さん

大人の川遊びを！

①鹿児島県のその名も湧水町の生まれ。子どものころから川が大好きで、水辺の遊びをいろいろ楽しんできた。成増に越してきて、大人の川遊び仲間が欲しいと思い、会報を見て惹かれたが、なかなか勇気が出なかった。源流まつりの日に思いきって入会。いまは成増から自転車で片道30分ほどかけて参加している。

②川に入るだけでテンションが上がるし、旅先でも川があると入りたくなるくらいなので、活動は楽しい。(実はカエルは少し苦手だったけど、今は慣れてきた。)

③ホテルが飛ぶのを見たいけど無理かな。あとゴーグル付けて水中を(匍匐前進して?)見られたら楽しそう。



活動記録

2023年1月～3月

2023年1月～3月

1月

14(土) カエル池掃除&2号池設置
web“源流の森”研究会

15(日) WE LOVE 白子川の会

21(土) 運営会議

22(日) 定例活動

23(月) 八坂小学校4年生初の川授業

2月

19(日) WE LOVE 白子川の会
白子川講演会

25(土) 運営会議

26(日) 定例活動(お汁粉)

3月

5(日) 「川の日ワークショップ関東大会」
に参加

10(金) カエル池がにぎやかになってきた

11(土) web“源流の森”研究会

15(水) 八坂小学校4年生の川体験(わくわくパーク)

16(木) キリン福祉財団の助成金 落選

19(日) WE LOVE 白子川の会

25(土) 運営会議

26(日) 定例活動 雨天中止

TOPIC

八坂小4年生が白子川初体験

わくわくパークにて

3月15日、4年生2クラスの子供達が総合学習の一環で白子川にやってきました。きっかけは、小学校裏手にある白子川のことを誰も知らないことから、皆で『白子川博士になろう』というテーマで生き物などの調

べ学習をしているうちに水辺の会の活動を知り、当日の体験につながったということです。子供達は五感をフル回転して楽しんでいたので、先生は来年度も積極的に取り組みたいとおっしゃっていました。



カエル池を増設しました!



池の増設は2年振り。産卵シーズン(2~6月)に間に合う1月14日に無事完工しました。見えない基礎もしっかり施して中に穴あきブロック・レンガ・石で浅瀬や島造り込んだ労作です。工事に当たった会員らは、約半日掛りの久し振りの筋肉労働の後、心地よい達成感にひたりながら、カエル達が白子川源流の水辺や近くの井頭の森

でみんなと暮らすための基盤として、このカエル池も働いてくれるよう祈願しました。



活動予定

2023年4月～7月

*毎月第3日曜日に WE LOVE 白子川の会を、毎月第4日曜日に定例活動(“川を楽しむコーナー”併設)を、予定しています(定例活動は井頭公園で13時半から。どなたでも参加できますが、新型コロナの感染状況により、自粛または縮小する場合があります)。

[ご報告] 助成金の申請(落選)に

2022年の秋に申請したキリン福祉財団の「令和5年度キリン・地域応援事業」について、障害を持った子ども達にも“川体験”をしてもらおう!と、初めて地域社会福祉分野での応募に挑みましたが、残念な結果となりました。

編集後記

散るサクラに想うこと...3月半ばに東京の桜の開花宣言が出されて、区内の小中学校の卒業式には満開となり、牧野記念庭園の入り口の“センダイヤ”は、3月末にはすっかり葉桜となっていました。「桜のトンネル」をくぐり入学式へと向かうピカピカの1年生の姿は、ひと昔前の風景なんですね。

さて、今はもう5月。白子川のマルバヤナギも濃緑の葉を茂らせています。コロナも5類感染症の扱いになり、マスクを外して歩くことも、かなり抵抗がなくなりました。今年も白子川に、カワセミやカルガモの親子の姿が見られることでしょう。今年こそ、鳥たちの仲むつまじい様子を眺めながら、私たちが肩寄せ合って、おしゃべりしたいですね。(松)

発行 白子川源流・水辺の会
<https://shirakogawa.tokyo/>
編集 小川 郁/喜多浩子/高宮信三郎/
永井 薫/日高美南子/松岡直子
題字: 竹内尚代
レイアウトデザイン: 井之上聖子
発行部数 1,200部
共同代表 岡崎一成/菅沢 博
事務局 練馬区南大泉1-10-5
03-3923-8430 菅沢 博
※この会報は年3回発行しています

